

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101368		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	サンビレッジ大垣 グループホーム さくら・さくら		
所在地	岐阜県大垣市北方町5丁目35番地		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;J_gyosyoCd=2172101368-002P.efCd=21&amp;Ver.si.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/idx.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;J_gyosyoCd=2172101368-002P.efCd=21&amp;Ver.si.onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年11月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの強みや個性、生活習慣を大切にして、その人らしい生活ができるよう、支援している。併設しているサテライト特養、デイサービスへも、自由に行き来ができる為、一緒にレクリエーションに参加したり活動することで、社会性の維持に努めている。グループホーム内でも、場面の使い分けや、利用者同士の相性に留意し、強みを活かした暮らしが送れる様な支援をしている。暮らしの中で利用者、職員、ボランティアと共に作業をし、喜びや達成感などを一緒に感じられるように努めている。また、地域との関わりも大切にしている。健康教室の開催や大垣通信による情報発信、地域のいきいきサロンやライフサポーターが開催するコーヒージョップにも参加している。介護の専門性、認知症ケアの質を高める為の育成、研修にも力を入れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、通い(デイサービス)、泊り(ショートステイ)、暮らし(特養とグループホーム)、訪問看護や配食サービス等の複合サービスを行う「サンビレッジ大垣」の組織の中に組み込まれ、建物の2階の一角にある。「サンビレッジ大垣」は統一した理念の下、組織が一体となって地域に密着した介護施設となることを目指して運営されている。施設内は自由に往来でき、行事・レクリエーション等は毎日のように計画され、当事業所の利用者は好みのものに参加でき、楽しみを享受できる。介護等の記録はSOAPを取り入れて、その人に合った、その人のための生活支援を探求しながら、一段とステップアップされた介護が展開されている。事業所は利用者にとって毎日をその人らしく暮らし続けることを目指し、取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	部門会議や会議の中で、理念の共有・認識の確認を行っている。理念を基に、利用者の意向を確認しながら支援をしている。生活の幅を広げる為にもインフォーマルを共働している。	管理者は、職員が作成した自己評価シートの提出時や面談の際に、理念の確認と実践の程度を評価している。また、毎月の定例会議での勉強会で、管理者は理念に繋がるテーマを選択し、理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	多種多様なボランティアとの交流、地域の学校へ訪問して体育祭の見学。毎年恒例の地域行事へ参加している。地域への外出や外食、つつみへ散歩に行きティータイムとしても利用している。地域のいきいきサロンにも参加し繋がりが深まってきている。	「サンビレッジ大垣」の一員として地域の行事に参加している。地域住民やボランティアの協力を得て、桜祭りやバーベキュー等を開催し、地域住民を呼び込んで一緒に楽しんでいる。また、体験学習の受入や健康教室を開催し、地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域住民向けに健康教室を開催している。認知症疾患医療センターから認知症予防について。補聴器等の講義もあり、地域住民の知りたい話題に応じて内容を決めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、家族、自治会長、協力医、地域包括等からの出席もある。運営状況の報告や、その時の旬の話題を出しながら、サービス向上のための意見を頂いている。いきいきサロンでの様子も運営推進会議で報告している。	会議では、施設に属する組織の一員として、グループホームの運営状況、利用者状況の結果、外部評価や行事の開催結果等を報告し、意見をもらい検討している。会議は、多彩なメンバーが参加して行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内のGHや小規模多機能のケアマネが集まり、事例検討や意見交換を行う「グルマネ・タキマネしゃべり場」に参加して、質の向上や取り組みの意見交換をしている。派遣相談員が来苑し、実際の現場を見て意見をもらい、その内容について検討している。	市の担当者とは絶えず連絡を取り合っている。市が主催する「グルマネ・タキマネしゃべり場」の会に参加し、計画・運営にも携わり協力している。事業所行事の案内を出し、市や包括支援センター職員の参加を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに沿って、会議等で勉強会を開催したり、現場の中で学び合っている。玄関の鍵は夜間のみで、利用者は自由に出入りが出来る。ベッド柵においてもマニュアルがあり、職員研修の中でも障害者体験を実施し、体感する事で人の『痛み』を理解するよう努めている。	身体拘束・虐待については、初任者研修や勉強会で学び、また、先輩職員とOJTで、その都度話をしている。今年、一人で散歩中に転倒し骨折した事例を基に、当日のスタッフからの説明を聞き、アセスメントを行い、是正改善策が拘束に繋がらないよう検証している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社段階で研修を受け、会議等で勉強会を実施し確認を行っている。ケアの中で身体的虐待、心理的虐待等が起こらないよう、声掛け態度に留意している。気が付いた時お互いに声を掛け合いながら、虐待防止に努めている。		

サンビレッジ大垣 グループホーム さくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修で学ぶ機会がある。実際に一人が成年後見制度を利用している。『高齢者の尊厳の保持』の視点を大切に研修生の育成を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族が、理解・納得が出来るように都度、確認を行いながら説明をしている。サンビレッジの理念や高齢者を抑制しないケアの話からリスクに対する旨の理解を契約時にしている。不安な時はいつでも相談に乗れるような体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価委員会の設置。委員の不定期訪問があり、利用者の思いを聞いてもらえる機会がある。面会時に家族の思い、不安なことや意見等が話しやすいように、関係づくりに努めている。	利用者からは、選択肢を提示しチョイスしてもらう方法で意見をもらっている。家族からは、面会時に意見・要望を聞いている。2015年には家族アンケートを実施し意見を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中や、年度末の自己評価シートを基に面談を行い、意見や提案を聞き業務やケアに反映させている。他部門の上司や仲間にも相談できる環境にあり、相談しやすい相手に話ができるようになってきている。	自己評価シートの提出時や毎月の定例会議で、職員の意見を聞いている。管理者は、日常、積極的に職員に声かけし、プライベートも含めて、意見・要望を聞いている。利用者の介護方法や日常品の購入につながる意見はすぐに実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートを年度末に記入し、要望や希望を出すことができる。それらに応じて面談を行い働く条件や希望を整えることができる。永年勤続年数も5年おきに表彰して、本人の喜びや、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議において勉強会を開催している。各種委員会があり誰でも参加が可能である。外部講師を招いての勉強会も多く、市や県からの研修や勉強会の案内も配られ、興味のあるものに積極的に参加している。エルダー制度を導入しOJTの中から育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、市内のGH・小規模多機能事業所のケアマネが集まり、情報交換をする機会がある。市内の他GHが開催している勉強会に参加している。他事業所の取り組みや意見を聞く機会となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初の不安には、時間を十分に取り、ゆっくりと関わっている。本人の言動に気を配り、不安や不便に対応し、希望が話せるような関係作りに心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネや他事業所等と連携を密に行い、家族の思いや不安な部分を聴きながら、入所の準備を一緒に行っている。話し易い関係を構築し、家族も安心してサービスが利用できるようにサポートしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設しているデイ、SSを利用してもらい、他利用者や職員と馴染みの関係を構築し、リロケーションダメージの軽減を図るよう努めている。いつまでも、馴染みの場所で暮らしていく事ができるようにサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事や相性をアセスメントして、共同作業を取り入れている。本人の経験を活かした活動を取り入れ、誇りを持って暮らせるように支援している。日々の話題を語り、感情を共有している。人生の先輩として学ぶ事が多く相談にも乗ってもらえる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の声、本人の言動と希望を大切にしていきながら関わっている。行事等は家族にも声を掛け、共に過ごせる時間を大切にしている。家族の思いに耳を傾け、本人への理解、認知症への理解をしてもらう事で、共に支え合えるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所、人との繋がりを把握して、生家訪問、姪宅訪問、かかりつけ医、娘宅でのバーベキュー等、在宅時の暮らしを断ち切らない様に、家族の協力を得ながら支援している。デイや特養の馴染みの利用者との関係が継続できるように支援している。	契約時に調査した生活歴や仕事歴等の情報は基本情報シートとしてまとめ、入居後に知り得た情報もパソコンを使用し、利用者毎の関係継続の支援に活かしている。馴染みの人や喫茶店やレストランには、家族の協力を得て訪ねることが出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の相性や強みの把握をしている。女性同士で性格の相違によりぶつかり合う事もあるが、職員が間に入る事で程良い距離を取ってもらい、様々な家事作業を助け合いながら行える様に努めている。居室でこもりきりにならない様に声を掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他界後、物故者慰霊祭等を通して、その方の人生を共に振り返り、家族の思いを聴く機会を設けている。退居者家族にも、中川さくら祭り等の行事案内等を配布し、関係が切れないように努めており、その後ボランティアで活躍されている家族もみえた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが思いを話せるような関係を築き、常に、誰のために、何のためにを考えながら支援している。日常の言動の観察から状態把握、情報共有を行い、ケアプラン立案時に、本人と家族に希望や要望を聞き取り入れている。	利用者の行動をよく観察したり、変化に注意したりして、何気ない言葉を聞き逃さないようにして思いや希望の把握に努めている。利用者が選択できるよう問い掛けし、思いや意向を確認して、介護記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中で折に触れ話題を提供し、話を引き出し、生活歴や生活背景を把握している。面会時に家族からも情報をもらっている。また、馴染みの家具を使用し、本人にとって過ごしやすい環境に近づけるよう、家族と本人と一緒に考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	休養と活動のパターンを把握し、その方、本来の暮らし方を損なわないように努めている。その日の暮らし方は、自己選択、自己決定してもらえるように、個別の声掛けをしている。日頃から、“いつもと違う”という変化に気付けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常の行動と会話、家族の要望を取り入れ、必要に応じ、医師、看護師、作業療法士、言語聴覚士の参加のもと担当者会議を開催し作成している。毎月の会議でモニタリングを行い、意見を出し合い多方面で考えられるように努めている。	毎月のモニタリングではSOAP記録を活用し、介護計画の見直しを検討している。1年毎に独自の評価項目で作成されたアセスメントシートに従い評価し、その結果を基に、家族の意見を取り入れ、職員及び関係者が参加するカンファレンスで介護計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPの実践、ひもときシート、センター方式を随時活用し、状態変化に応じて統一した支援をしている。言葉や行動の変化については、考えられる根拠に基づき、プランに活かせるように記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅生活が継続出来る様、短期利用を行っている。状況に応じて同行サービスも行っている。入居者や地域住民、家族等、誰でも参加できる健康教室の開催。小学生対象にキッズセミナーを開催し、今後の福祉の担い手を育てるために取り組んでいる。		

サンビレッジ大垣 グループホーム さくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コーヒーサロンやボランティアの訪問、いきいきサロンへの参加で地域住民と関われるよう支援している。地域の小学校、中学校、大学生と交流、他事業所の力士交流会にも参加して、暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に添って、4名が在宅時からのDrを利用し、家族と通院して受診を継続している。ターミナル時の往診をかかりつけ医に依頼し看取りを行っている。その都度、本人、家族の意向を確認しながら受診、往診の支援を図っている。	かかりつけ医や専門医への受診は家族と受診している。看護師が事業所での様子をメモや電話で伝え、受診結果の報告を受けて、情報の共有を図っている。家族が対応できない場合には、職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化を伝え、介護職員の不安な事を聞くことができる環境があり、適切な対応ができています。いつもと違うという変化や訴え、日々の状態は朝礼時や随時申し送り、看護師が確認して処置や指示がもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報提供を行い、滞りのない医療が受けられるように対応している。入院中は看護師、介護職員が訪問し、現状の状態把握に努め電話での共有も図っている。早期退院への計画を家族を交え実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における協議は契約及び入所のオリエンテーション時に話し合いを実施。状態変化の度に、家族の迷いや不安、悩みに対応している。終末期においては医師・看護師・介護職等の各専門職を交えカンファレンスを行い、事前指定書をもとに本人及び家族の思いを確認し合い支援している。	入居時に「事前指定書」で利用者・家族に終末期の対応について、確認している。重度化が進んだ場合には、その都度家族と話し合い、必要に応じ医師を含めた関係職員で対応を検討している。また、職員は、ターミナルケア委員会でも機会がある毎に話し合い取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルが作成しており、急変の対応を会議等で確認し合っている。月に1回介護士、看護師が各利用者の緊急時対応マニュアルの確認・見直しを実施。看護師が外部の研修で学んだ事は会議の勉強会にて介護職員に伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、家族、地域、消防署員等と協働して防災訓練を実施している。夜間想定や引きずり搬送等、定期的訓練の実施。その他に、緊急時に対応できるか、一人ずつ動きを確認をし合い、迅速に対応できるように努めている。	年に2回、夜間想定を含めた防災訓練を実施している。緊急時の対応や利用者の避難誘導訓練等、マニュアルに沿って訓練している。訓練には自治会長の出席はあるが、地域住民を含んだ災害時の対応の体制までは確立されていない。	運営推進会議等で、災害時に、地域住民に協力してもらえる方法を検討をされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言葉、生活背景を大切に、それに合った暮らしの援助や声掛けを行っている。関わる時に、挨拶や目線を合わせる、依頼形の言葉使い、声の大きさやトーン等、一人ひとりに合わせた声掛けに気を付けている。	利用者の仕事歴や生活歴を考慮して、その人に合った対応と声掛けに気をつけている。トイレ誘導時は、さりげない声掛けをし、ジェスチャーや筆談も取り入れて支援している。排泄時には、ドアを閉め、膝掛け、消臭剤等を利用して羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が話せるように、本人に分かり易い言葉で伝えるように心掛け、何気ない言葉も聞き逃さないようにしている。何かを決める時には、選択肢をいくつか設けたり、物を見せたりしながら自己選択、自己決定できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を継続できるように、自由に散歩したり、居室で過ごしたり、参加したいレクがある利用者には継続して参加できるよう声掛けをしている。その日の体調や気分に合わせて暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には一緒に服を選んで、必要に応じ助言も行っている。洋服や履き物の汚れに配慮し、身だしなみに気を付けている。その人の納得のいく声掛けをすることで、季節に合わない服装をしても本人の尊厳を損なわないように着替えてもらうなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階から冷蔵庫を見て、一緒に考え調理をしている。食べたい物や作りたい物を聴き、旬の食材を使い、食にまつわる思い出話を楽しんでいる。片付けも利用者同士で行える様に見守りと声掛けを行っている。	利用者に食事を楽しんでもらう為に、雰囲気作り、旬の惣菜の提供に配慮している。食事の準備、調理、片づけを役割を持って一緒に行ってもらえるよう支援している。利用者の好みを聞き、要望に応えるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	いつでも水分が摂れるように準備し、水分量が少ない方にはこまめに声を掛けている。摂取方法、機能食品も色々試し、家族にも相談をして好みを探り、飲み易いものを持参してもらうなど支援している。いつでも管理栄養士に相談できる体制が整っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自立できる様な声掛けをして、磨き残しがある場合は、介入している。義歯洗浄に抵抗のある方でも、信頼関係を構築することで、介入できるように努めた。治療が必要な場合は、家族に申し送り、歯科受診や往診依頼して、改善を目指している。		

サンビレッジ大垣 グループホーム さくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄間隔や尿量の観察、及び言語的表現が困難な方の排泄のサインを見逃さないようにしている。羞恥心にも配慮し、トイレ誘導の際には声の掛け方や声の大きさに気を付けている。サポートが必要な所を見極め、できる所は本人の力を活かしている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、利用者の出来ることや習慣を活かしながら、自立に繋がる支援をしている。自然排便ができるよう、その人に合った水分の摂取方法(お茶、牛乳、ゼリー等)を選択し、食事にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食のフルーツヨーグルト、麦御飯、個別に冷たい牛乳を提供している。食物繊維を含む食品を取り入れたり、バランスにも配慮している。蠕動運動を取り入れる為にもレクや活動、体操には積極的に参加してもらい、移動時は全員が階段を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日可能である。本人の希望に添って入浴し、外出日は別日で対応している。入浴時のリスクが高い利用者場合は安全に入浴ができるように2人体制で行う。夏の発汗時など就寝前の入浴を取り入れさっぱりと気持ちよく寝られるよう支援している。	利用者の状況に合わせて個浴、機械浴が可能で、入浴順や時間帯等も選択できる。大浴場も併設事業所と共同で利用でき、楽しみにしている利用者もいる。風呂上りの水分摂取用に好みの飲み物を提供したり、入浴剤を使用したりして、楽しみながら入浴ができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れなかった時や疲労回復等、日中帯にベッドやソファでの休養を取り入れている。ソファの位置を変えるなど、本人の過ごしやすい環境を整えている。就寝前は、個々の時間を過ごすことで、リラックスし安心した眠りにつけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を基に把握して支援している。内服や塗り薬等について変更した時は経過観察を行い、看護師からもアドバイスを受けている。薬が変更になった時にはアセスメントを行い、結果は家族や医師に伝え、利用者が心身良好に過ごせるように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの強みを活かして、できる事ややりたい事の支援をしている。飲食店で働いていた方に、食事作りや盛り付け、配膳を行ってもらう事で、得意分野での役割を担うことで、いきいきとした表情が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出や外食、自宅の行事の参加は家族の協力の基に行っている。行きたい所、行ってみたい所を利用者と一緒に行き、家族も巻き込んで計画を立てている。紅葉ドライブ、お千代保稲荷散策等を実施している。天気の良い日には近くの喫茶店に行き、社会との繋がりを維持している。	日用品や食材の買い物には利用者を順番に誘って外出している。天気の良い日の散歩や施設内のコーヒーサロンにもよく出かけている。家族やボランティアの協力を得て、利用者が行きたいと言われた所には、綿密に計画を立てて希望に沿うよう支援している。	



サンビレッジ大垣 グループホーム さくら・さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時や外出時に財布を持参してもらい、好きな物を購入してもらえるように支援している。鞆に財布を入れて持ち歩くことができる方には、鞆に財布を入れてもらい、そこから支払いをもらっている。欲しい物を決め自分で支払うという行為を継続出来る様サポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や、その季節に合った題材で絵手紙を描き、家族や友人に出している。遠方の娘さんから定期的に電話があり、取り次いでいる。家族からの誕生日カード、年賀状、母の日の贈り物が届き、家族との繋がりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まずは清潔を第一に考えて環境を整えている。リビングや食卓の採光は、カーテンやダウン灯で対応している。玄関や空間には、季節の花や手作りの掛け物を飾り話題にしながら季節が感じられるようにしている。ベランダにはプランターを置き、水やりをして花や野菜の成長を楽しんでいる。癒しにもなるようなアロマも使用している。	リビングは、利用者の意見を聞き、自由にスペースを活用できるように工夫している。ベランダで花や野菜を栽培し、食卓や壁に季節の花や掛物を飾り、季節を感じられるようにしている。腰の低い大きな窓は、車椅子の利用者でも楽に外の景色を楽しむことができるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士、家族や来客者が、リビングやプライマリー空間、居室、施設内、つつみといった場所で自由に気軽に過ごせるように配慮している。プライベート空間を大切に、思い思いの場所で過ごすことができるように、構造上、死角の多い空間を活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活の継続が出来る様に、家族へ説明し協力のもと、居室には、使い慣れた家具、寝具、思いの物、畳を敷く等、慣れ親しんだ生活環境が整えられている。環境を整えることで、居心地よく過ごせるように努めている。	ベッド以外は馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。本人・家族と物の配置等を相談しながら、過ごしやすい生活環境となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは最低限のトイレと階段のみとなっているが、各居室の入り口に飾り棚があったり、キッチンのカウンターや棚を利用したり、ソファを置く等、利用者自身の持てる力を奪う事の無いように工夫している。行きたい所に自由に移動することができるようにしている。		